

キリスト教保育

年主題

さあ、漕ぎだそう
奏でよう

巻頭言

こひつじノート制作のあとさき

松成真理子

論説

「はじめまして」のキリスト教保育(2)

小見のぞみ



2024 MAY.

5

はじめに神は天と地とを創造された。

聖書 口語訳聖書・創世記1章1

(先月の「幼子とともにキリストへ」の続きです。)

また、神は、ことばをもって、創造しわざを進められた一神は「光あれ」と言われた。すると光があった(創世記1:3)とある。

神の言葉による創造ということは、聖書の創造の特徴であろう。それは、神の主権と全能をあらわすと共に(イザヤ書55:11)、人格的な神であることを示している言葉は呼びかけである。これに答えるもの、聞くものがあるとき、交わりが生まれる。すべてのものは、神に応答する者として造られたのではなからうか。そこに、人間の責任と使命がある。神の言葉は、今日も、新しい出来事を、創り出しているのである。

さらに、神は造られたすべてのものを、良しとされた。この世界と、そこにあるすべてのものは、神の祝福のもとにあるということなのだ。

そして、神は創造の目的に従ってそのみわざを必ず完成し、成就されるのである。それは神の約束であり、聖書の告知である。創造の信仰は、希望の信仰である。いまは、その途上なのだ。

さらに、神は、創造の冠として、人間を創造された。しかも、神のかたちに創造されたという。土の塵である人間に、神は生命の息(霊)を吹き入れたとある(創世記2:7)。人間の外形が神に似ているというのではなく、一人ひとり、おかすことのできない、人格や生命の尊さを神から与えられているということである。

一人ひとりは一その人でなければ生きられぬ人生、その人でなければ果しえぬ意味と使命をもった、かけがえない人間なのだ。

ひとりの幼子—そこに神の似像がある。

(田井中 純作・執筆 当時・日本キリスト教団倉敷教区牧師)
1975年『キリスト教保育』誌4月号より

キリスト教保育

第662号5月号



年主題

さあ、漕ぎだそう 奏でよう

幼子とともにキリストへ
目次 2

〈巻頭言〉 こひつじノート制作の

あとさき 松成真理子

〈論説〉 「はじめまして」の

キリスト教保育(2) 小見のぞみ

〈小論〉 自ら考え、選択し、行動し、他の人の

気持ちを感じる関わり方 越智正篤

聖書に聞く・お話 月下星志

子どもと賛美するために

図書紹介 田中陽子 西尾恭子

「カリキュラム」

5月 月のねがい表

心にとめて 井奥千恵

実践報告 熊本YMCA赤水保育園

実践からの学び 布村志保

心にとめて 橋本礼子

実践報告 五所川原こども園

実践からの学び 菅原創

絵本のとびら 小沢奈美

私たちの園では 赤坂洋子

〈連載〉 小さな庭だより 高浜真理子

〈連載〉 日々、子どもたちから

学んでいること 斎藤惇夫

礼拝のお話 熊本 剛

目福口福耳福 畠山修

風 塚本潤一 編集子 西嶋佳弘

連盟だより

カット 中畝治子 小鯛みより 松成真理子 金井ユリ
表紙絵 田中榎子

43 42 36 34 33 28 26 25



67 66 65 53 50 46 44